

千年の森便り No.159

2016.10.20

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月1日(土) 雨 臨時活動日

クロヤツシロランの花探しのため、秋元、新井通子、栗山、成沢、福島、細谷、真鍋が出動、四街道の山口さんも応援参加して合計8名。雨の中で人海作戦の甲斐あって、ついに念願の花を見つけることができました。

○クロヤツシロランの花探し

8名が巨木林に等間隔横1列に並び、ほこら山方向に向かって暗い林床を熟視しながら這い回り花を探しました。暗いので懐中電灯持っている人も。先ず、もやし状のつぼみが見つかり、続いて花終えた莢果が数株見つかり、花はなかなかでしたが、昼前ようやく花3株見つかりました。

09年10月24日、中田智貴君が莢果の株を発見して以来7年間、毎年花を探してきましたが、ついに見つかりました。後日、県中央博大野様画像判定の結果、クロヤツシロランと同定いただきました。雨の中ご協力下さった皆さん、有難うございました。(真鍋)



薄暗い林床を這いまわり花探し



クロヤツシロランの花

○きのこの記録

雨の多い日が続き、きのこの発生には条件がよかったようで、多くのきのこを確認することができました。

バカマツタケ(6本採取)、ヒトヨタケの仲間、ウコンハツ(黄色が鮮やか)、アカヤマドリ、クロハツ(多量に発生 大型のものあり別種?)、クロハツモドキ(ヒダが密)、ケシロハツモドキ? ベニタケの仲間(大型を含みいろいろ)、イグチの仲間、ヤマドリタケモドキ? シロオニタケの仲間、クサウラベニタケ、タマゴタケ、ミネシメジ、ウスヒラタケ(枯れ木に発生)、サケバタケ(香りが強い)、ツエタケ、チシオタケ、ニガクリタケ、オニフウセンタケ、ホウキタケの仲間 3種類(白、茶、ピンク)、ケロウジ、ノウタケ(老菌)、キツネノロウソク、ツチグリの仲間、ニッケイタケ、カキシメジかも、ウスタケ、ウスタケの仲間*、ムラサキホコリ(番外) (福島)



バカマツタケ



クロハツ



キツネノロウソク



ウスタケ



ウスタケの仲間*

*県中央博吹春様によると、「フジウスタケ」は千葉県では確認されていないとのことで、従来豊英島で「フジウスタケ」としてきたキノコは「ウスタケの仲間」と記載しました。(真鍋)

9月24日、林床に沢山あったオオホウライタケが姿を潜め、クロハツやクロハツモドキ、ウスタケの仲間などがいっぱい、1週間でのきのこの風景の変化に驚かされました。(真鍋)

○ヘビの記録

クロヤツシロランを探索中に巨木林エリアでニホンマムシ2匹、きのこ探索中にヤマカガシ1匹を確認しました。いずれの個体も小型でした。(福島)

10月16日(日) 晴 秋のきのこ観察会

参加会員は伊藤、鶴沢、大原、久我夫妻、坂本、田島、成沢、福島、藤川、真鍋、村野、山口の13名。講師は県中央博の吹春先生、観察会ご案内に応じて参加下さった千葉菌の伊豆夫妻、小倉夫妻、片山親子、内藤夫妻、吹春夫人、長田、橋本、石井、大久保さん、ベトナム留学生のタオさん、森林インストラクターの小池さん、自由研究できのこ勉強中の小4井上さん親子、きのこ観察会常連の森さん、房総の旅人市原さん、今回初参加の大野さん、神谷さん、野間さん、武藤さんと多彩な顔触れをお迎えし総勢37名。



簡単な準備体操の後、吹春先生のホテイ岬コース、バカマツタケ探索-禁断の岬健脚コース、自由探索コースに分かれてフィールドのきのこ観察。広場に集まったきのこ見本を先生と千葉菌のメンバーで同定・分類、昼食の後吹春講師の興味深い解説、お話は各きのこの特徴から始まり、食・毒、毒きのこの味覚、食べ方、調理方法に発展し、ベテランの体験も紹介されて話は盛り上がりました。(真鍋)

きのこの発生量は多くありませんでしたが、参加の皆さんの協力により、多くの種類のきのこを見ることができました。特に、テングタケ科のきのこがいろいろ見られて勉強になりました。ありがとうございました。(福島)

○フィールド観察-吹春講師(ホテイ岬)コース

今回の吹春コースは、ホテイ岬方面を中心に探索しました。初参加の方々は、きのこ採取のポイント(①壊さない、②蒸らさない)をレクチャーされていました。また、オニフウセンタケを見つけた際には、「千年の森」とニューギニアの森とのつながりについて説明され、スケールの大きな話に皆さん感嘆のご様子でした。(成沢)

写真の通り、先生のお話をよく聴き、きのこをよく見て、丹念にメモする姿が目立ちました。(真鍋)



きのこをよく見て、よく聴いて丹念にメモ

○バカマツタケ探索-禁断の岬コース

鶴沢、森、神谷、福島の4人で、禁断の岬にバカマツタケを探しに行きました。細尾根を中心に、崖になっている急斜面を木につかまりながら丹念に探した結果、10本程度を見つけることができました。全体に小型のものが多く、一部はすでに傷んでいました。時期的には、少し遅かったかもしれません。(福島)



バカマツタケは禁断の岬の苔むす崖に

○吹春講師解説の要旨

いつも使っている孢子の色で分けた資料の順番で、吹春講師の解説が進められた。

孢子の色が白いベニタケ科は、乳液が出ないルスラ(Russula)、乳液が出るラクタリウス(Lactarius)があり、森の中では有力な外生菌根菌類。キンラン、ギンラン、ギンリョウソウなどが栄養をもらっている。縦に裂けず、もろいのが特徴。

ヒラタケ科は冬に出るものが多く、エリンギはこの仲間。

又メリガサ科で千葉で覚えておかなければいけないのはサクラシメジ。



キシメジ科では、バカマツタケ、カキシメジ（毒）、ミネシメジ、チシオタケ、ツエタケの仲間、スギエダタケが採れた。バカマツタケはマツタケの香りが強い。スギエダタケはスギの枯れ枝から出る。

テングタケ科は、ドクツルタケやシロタマゴテングタケなど猛毒のものを含むので注意が必要だが、食用菌もあるのでこの入門によい。名前が付かないものが多いが、最近では中国で分類が進んでいる。

イッポンシメジ科には、千葉のきのこ好きは必ずマスターしなければいけないウラベニホテイシメジがある。かじると苦い。よく間違えられるクサウラベニタケ（毒）は、苦くなくマイルドな味。

ヒトヨタケ科ではミヤマザラミノヒトヨタケがあった。

オキナタケ科（新分類ではモエギタケ科）では、フトン状のつばを持つヤナギマツタケが採れた。

モエギタケ科ではニガクリタケ（毒・非常に苦い）が採れた。

フウセンタケ科はヒダが鉄錆色をしている。オニフウセンタケは、ニューギニアのシイカシ林でもみられ、千葉の森がニューギニアと繋がっていることを示すもの。

イグチ科では、キイロイグチ、オニイグチの仲間が採れた。参加者から、ヤマドリタケモドキの美味しい食べ方の紹介があった。

腹菌類は、ヒメツチグリの仲間、ノウタケが採れた。胞子の飛ばし方がおもしろい。

ホウキタケの仲間は名前が付かない。

ラップタケの仲間、以前フジウスタケとしていたものはウスタケの仲間。（福島）



チシオタケ

ドクツルタケ

オニフウセンタケ

〇きのこ目録（吹春講師作成の目録を掲載させていただきます）

ウコンハツ, ウスタケ(43200), ウズハツ, ウスヒラタケ, ウラベニホテイシメジ, オオツルタケ, オニフウセンタケ(43207), カイガラタケ, カキシメジ, カバイロツルタケ(43219), カワラタケ, ガンタケ, キアシグロタケ, キイロイグチ, キカラハツタケ(43222), キチャホウライタケ(43218), クサウラベニタケ, クロハツ, クロラップタケ, ケロウジ(43210), コウモリタケ, コタマゴテングタケ(43204), コテングタケモドキ, コバヤシアセタケ, スギエダタケ, チシオタケ(43220), ツヤウチワタケ, ツルタケ, トキイロラップタケ(43197), ドクツルタケ, トビチャチタケ, ニガクリタケ, ニッケイタケ(43198), バカマツタケ(43214), ベニチャワンタケモドキ, ミキイロウスタケ, ミネシメジ(43195), ミヤマザラミノヒトヨタケ(43203、43217), ミヤマタマゴテングタケ(43205), ヤナギマツタケ(43213), ノウタケ. アカヤマタケ属(43208), アケボノドクツルタケ(Amanita sp., 43212), アセタケ属多数, アンズタケの仲間, イッポンシメジ属(43215), イボタケ属(43221), ウスタケ属 (Turbinellus sp., 43199), ウラベニガサ属(43216), オトメノカサ属, オニイグチ属, キシメジ属, キツネノカラカサ属, クヌギタケ属, チチタケ属多数, チャワンタケの仲間, ツエタケの仲間(43211), ナヨタケ属, ヌメリガサ属(43206), ヒメツチグリ属(43196), ビョウタケの仲間, フウセンタケ属(43209), ベニタケ属多数, ホウキタケ属(43202), ホウキタケ属(混在)(43201), モリノカレバタケ属.
※キカラハツタケは同定会で名前をつけていなかった種で、柄にあばた模様があり、乳液は白色ですぐに黄変する特徴をもっています。千葉県では東大の演習林などで採集されているもので、おそらくモミと関係のある外生菌根菌なのでしょう。

※同定会で、ヒメカバイロタケとしたものは、同属のキチャホウライタケでした。

※属などが1つでないものは「の仲間」とした。番号がついているものは、博物館に標本としたもので、番号のあたりにCBM-FB がつきます。（吹春）

「本当に参加してよかった！」きのこ観察会

市川市 井上亜希子・ちた（小4）

子供の夏休みの自由研究テーマは「キノコ」。小3から2年連続研究をし、早くも、あと1年は継続すると決意しました。1年目は、市内の公園で見つけた「都会のキノコ」が主でしたが、徐々に活動期間と範囲が広がり、研究3年目にあたり「次は山のキノコが見たい！ 連れて行って！」とリクエストされ、ホームページ検索して行きついた場所がこちらの「ちた千年の森をつくる会」主催の観察会でした。いつでも手に取れるところに置いてあるきのこの本。その監修者である吹春俊光先生が講師と知り、申し込んだ日から、親子で心待ちにしていました。



終了後、子供に感想をたずねると、「おしゃべり」とは程遠い子の口から次々と言葉が溢れてきました。「初めて見るキノコがたくさんあったから、嬉しかった。特にサクラタケ！（これまでの個人の活動で見つけたキノコは茶系がほとんどだったので）きれいな色のキノコや鮮やかな色のキノコがあるなんてびっくり！食べられる・食べられないについてたくさん教えてもらった。今まで、図鑑で調べていたけれど不明なものが多かったし、それに調理法までは載っていなかったから、勉強になった！ヒメツチグリの胞子が出ているところも初めて見た。他にもあんなに大きいホウキタケ類も見たことなかったし、つぼ・つぼが残っているのも、たくさんあった～。竹が生えていたから、キヌガサタケがあるかな～って思ったけど、見つけれなかったから残念。次はクチベニタケも見たいから、探すポイントを教えてもらいたいな。」

今年の自由研究を持参し、吹春先生に名前を特定できなかったキノコについて質問したり、同定ミス指摘していただいたりと大変収穫の多い観察会になりました。帰宅途中の車中では「本当に参加してよかった！」と期待以上の内容に満足した子供の表情を見て、往復4時間かけて出かけたかいがあったと私も嬉しくなりました。今回学んだ内容は、今やフィールドワークと化している都会のキノコ探しと共に来年の夏に学校に提出します。先生からいただいたアドバイスをもとに、よりブラッシュアップした自由研究になるはずです。



会の皆様、吹春先生、たいへんお世話になりました！

留学生タオさんからお礼のメッセージ

Dear Sennennomori

I send a messages about the "kinoko gari" yesterday.

The park is very beautiful with a lake and many kinds of plants. We can found many kinds of mushroom so that I can learn about the mushroom information from them. Many kinds of mushrooms can eat and that would be very interesting.

Thank you so much for let me joined the mushroom hunting and take a photo for me.

Wishes to have chance to go next time

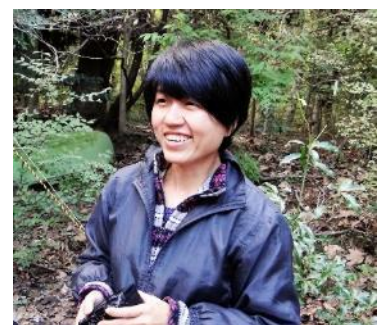
With best regards.

NGUYEN PHUONG THAO

Department of Botany

Southern Institute of Ecology

Vietnam Academy of Science and Technology (VAST)



タオさんは吹春先生のもとでキノコ勉強中でしたが、今年10月から某大博士課程にキノコ研究のため数年の予定で留学中。

薄曇りの中で始まりました観察会。静かな森にはヤマガラが賑々しく鳴き交わしていました。

先月のキノコはたいそうな収穫があったと伺いましたが、開始してすぐ、今日はあまり多くの出会いは見込めないかなと思っていました。しかしそこは観察会。数が少ないとなれば、出会えたキノコにひと際丁寧な観察と解説が付いてきて、収穫に夢中になるのとは違う楽しい時間を得られました。その楽しみ方のひとつは、素手でキノコの独特の手触りを感じるのです。素手で触れないキノコはない、手袋を取ってその触感を味わうようにとの先生のお言葉に、基本に戻った気がします。

それから、いつも思う観察会の不思議。ほとんど収穫がないと思っていても、終わってみればブルーシートに結構な種類が並んでいます。たくさんの目というのは威力を発揮するもの、またベテランさんの「キノコ目」にも感心するばかりです。一体どこから見つけてこられるのでしょうか。

さらに、こんなにバカマツタケが出てきた観察会は、個人的に初めてです。「香りマツタケ、モアバカマツタケ」。若いものとよく育ったものの香りを比べられるくらい堪能させていただきました。

食べられる・食べられないは、観察会の大事なテーマのひとつですが、私はどちらかといえばあまり問題にできませんでした。が、この度、ウラベニホテイシメジとクサウラベニタケとニガクリタケを食べ比べる機会を得ました。お味は・・・う〜ん、この味の成分は何なのでしょう。家に帰るまで、ニガクリタケの後味がずっと残っておりました。「どんなキノコも一本までなら大丈夫」。自己責任ではありますが、先生の観察会のこのスタンスが大好きです（笑）。体験した知の積み重ねとして、幾多の人体実験の上に今がある日本の食文化ですが、現代では食の事故が起こればすぐに規制されてしまいます。仕方のないことですが、こうした機会に毒キノコを味わうことで、護られるだけではない、食べ物に対する判断能力を意識することができたのでした。

夕方には日が射ってきて、森の間を車で走る帰り道の気持ちのいいこと。。最後まで、五感で楽しんだ観察会でした。



ニガクリタケを味わう橋本さん

○昆虫観察記録

気温が低く曇っており、虫は少なかった。ときおり陽が射すと、チョウが飛ぶ。テングチョウがちらっと姿を見せてくれたが、写真を撮れず残念。ずらりと並んだ採集されたキノコに、センチコガネやオオセンチコガネが飛んできた。ごちそうがいっぱい。どうぞ召し上がれ！（田島）

ニホントビナナフシ♀
木の枝になりきっていた。小さな後翅は紅色できれいだが、メスは飛べないようだ



キロスズメバチ
獲物を抱えブーンと飛んできて枝にとまった。ジョロウグモの脚をとってから、肉団子にしていた。



マダラスズ
ヒバリモドキの仲間。広げられたブルーシートに沢山集まってきたのはなぜなのか？



ボーベリア菌に冒されたカミキリムシ
昆虫にとっては恐るべき菌類。これも命のつながりか！？



(他に観察された昆虫) ホソミオツネトンボ、オオカマキリ、モリオカメコオロギ、ツマグロオオヨコバイ、マダラアラゲサルハムシ、クロウリハムシ、クズノチビタマムシ、オオスズメバチ、キンケハラナガツチバチ、オオハナアブ、ホソヒラタアブ、キタキチョウ、ウラギンシジミ、シロオビノメイガ、ホシホウジャク

○野鳥記録

オシドリ 10 トビ 1+声 カワセミ声 モズ声 ハシボソガラス声 ハシブトガラス声 ヤマガラ声 ヒヨドリ声 メジロ声 以上9種

吊り橋を渡る時、オシドリ 10羽が右に左に飛び回るのを福島さんが見つめました。

身を潜めていた藪陰に釣り人が近づいたので、逃げ出したものの水面に散在するボートを避けて着水できる場所を探して右往左往しているようでした。

モズが冬の縄張り確保のため盛んに高鳴きしていました。ヒヨドリの声も一段と甲高く聞こえる、冬間近の季節です。島には大勢の人が入ってキノコ探しをしていた所為か、林内の小鳥類は低調でした。(坂本)

○センサーカメラの画像から

9月25日にアナグマの全身が写りました。以前にもアナグマの画像があったのですが、今回ほどはっきりしたものはありませんでした。アナグマと言っても熊の種類ではなく、イタチに近い仲間で、ムジナとも言います。タヌキとは違います。その他ではニホンザルが頻繁に出入りしており、前回メモリー交換してからの20日間で7日に写っていました。

スズメバチが4回ですが、もしかすると橋の下に巣があったのかもしれませんが。事故が無くて何よりでした。シカとタヌキはいつも通り写っています。(坂本)

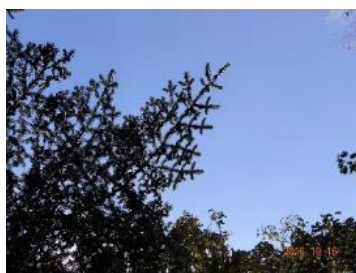


アナグマ 9/25 21時35分

気になるのは昨年から続く不審者です。箆を背負い、腰にも入れ物を下げていますから明らかにキノコ採りの人達だと思います。今シーズンは3回で4人が出入りしたようです。橋の入口扉の合鍵が出回っているようですから県に相談して、鍵を交換することも検討する必要があると思います。会の財産であるセンサーカメラを預かる立場としては、いたずらや盗難が心配です。(坂本)

○イヌガヤの味見

千年広場の傍らにあるイヌガヤに実が付いて、熟し始めていました。何人かが味見しましたが、甘くて美味しいと言う人、食べて食べられないものではないと言う人、ガソリン臭いと言って吐き出す人がいて、味の評価はまちまちでした。松脂臭いのは事実ですが、私は美味しいと思っています。(坂本)



秋晴れの空は碧く

この日の午後
予報に反して晴れ
上空には秋空が
碧く輝いていました

森の芸術品

片山さんは
アケビの蔓の手造り箆に
キノコや木の実など
美しく盛り付けました



お知らせ

○11-12月の活動日

11月13日(第2日曜日)、9時30分君津市清和自然休養村管理センター集合。広葉樹伐木、森林整備(ホテイ岬)、ギャップ林植生調査、植物・きのこ・野鳥調査など計画しています。この日、森林インストラクター会メンバーの来訪があります。

12月4日(第1日曜日)、9時30分君津市清和自然休養村管理センター集合。シカ個体数調査、巨木林成長量調査、植物・野鳥調査 物置整備など計画しています。